

飼料トウモロコシ害虫 フタテンチビヨコバイの発生予測モデル

(独)農研機構 九州沖縄農業研究センター



フタテンチビヨコバイは九州の飼料トウモロコシ栽培でワラビー萎縮症と呼ばれる生育障害を引き起こします。本課題ではフタテンチビヨコバイの毎年の発生量を予測するためのモデルを開発しました。これにより、その年の虫の発生量に応じた**効果的な防除対策**を決定することができます。

1 フタテンチビヨコバイによる被害



フタテンチビヨコバイに吸汁されたトウモロコシは収量が激減してしまいます

2 防除方法はあるのだけれども...

フタテンチビヨコバイの発生量に応じて防除対策は異なります

虫の発生量	効果的な防除対策
少ない	防除の必要なし
中程度	抵抗性品種ならばOK
多い	抵抗性品種を早期播種すればOK
とても多い	他の草種を栽培しましょう

その年の発生量が分からないと、どの防除対策をすればいいのかわからないよ...



3 発生予測モデルにより毎年の発生量を予測！

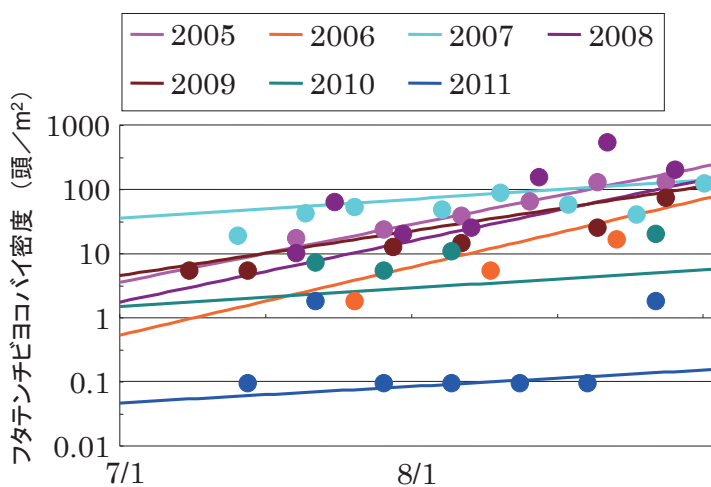


図. 7～8月の毎年のフタテンチビヨコバイ発生密度(●印)と気象要因から推定された密度増加直線

そこで！

重回帰分析・指数関数モデルを用いて
気温と降水量のデータから7～8月の
フタテンチビヨコバイの発生量を予測します

その年の発生量に応じた適切な防除対策を
決定することが可能となります



これで対策はバッチリ！！